3. 事業概要

(1) 常　設　展　示

常設展示室は全体で５室の構成となっている。第１室は「山梨の文学風土」と「樋口一葉」コーナー、第２室は「山梨出身ゆかりの作家と作品」、第３室は「芥川龍之介」コーナー、第４室は「飯田蛇笏・飯田龍太記念室」、第５室は山梨出身・ゆかりの作家104名をジャンルごとに年２回入れ替えて紹介している。

常設展示室の第１～４室は、下記のとおり年４回テーマを設定して一部の資料の入れ替えを行った。「作家の愛用品」「作家と家族」は、20～30点ほどのテーマに関わる資料を常設展の見どころとして表示･解説を加えた。また「八木義徳　生誕100年」「檀一雄　生誕100年」は第１室の山梨の文学風土のコーナーとの入れ替えで展示した。

資料一覧には、この期間中、出品された資料すべてを提示した。

◆３月19日（土）～６月26日（日）「作家の愛用品」
◆６月28日（火）～10月２日（日）「作家と家族」
◆10月４日（火）～12月25日（日）「八木義徳　生誕100年」
◆12月27日（火）～３月25日（日）「檀一雄　生誕100年」

第1室

山梨の文学風土

甲斐のうた（パネル展示）

酒折の宮／塩の山・差出の磯／都留の郡／山梨の岡

松尾芭蕉と甲州

杉山杉風「芭蕉翁馬上吟図」軸装〈複製〉 原本　天理大学附属天理図書館蔵
松尾芭蕉　森川許六宛書簡　元禄５年11月13日　軸装〈複製〉原本　個人蔵
高山麋塒　一瀬調実宛書簡　年不明12月19日〈複製〉原本　個人蔵
猪来編『蓑虫庵小集』文政７年自序〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵

甲州の紀行文

深草元政『身延道の記』元禄17年刊
荻生徂徠『徂徠集』巻之十五　元文元年序文「峡中紀行」収録
賀茂季鷹『富士日記』文政６年刊

甲府学問所　徽典館

甲府勤番支配宛　徽典館学頭任命通知書
乙骨耐軒「維新亨齋詩初稿」
乙骨耐軒「甲役途中詩」

国学を学んだ人々

萩原元克編『甲斐名勝志』天明３年９月刊
萩原元克「うまひとの」短冊
本居宣長点　辻守瓶「春十首」和歌

樋口一葉（ひぐち　いちよう）

馬場孤蝶「一葉の住みし町なり夕時雨」幅
樋口一葉「本郷五丁目」草稿幅
樋口一葉「さゞれいしの昔よりして契りけん岩ねをめぐるたに河のみづ」短冊幅
新五千円札（A000006A番）
青海学校小学高等科第四級卒業證書
吉川学校下等小学第八級卒業証書
一葉愛用の筆立て
一葉愛用の髪飾り・櫛・こうがい

一葉旧蔵　短冊ばさみ
写真パネル　母多喜・奈津（７歳頃）・姉ふじ・妹くに　本郷６丁目５番屋敷時代
写真パネル　左から次兄・虎之助、父・則義、長兄・泉太郎
樋口虎之助作　薩摩焼絵付皿
写真パネル　萩の舎集合写真
写真パネル　半井桃水
写真パネル　竹内桂舟 画「うもれ木」第７回挿絵
写真パネル　文学界同人
「文学界」1895（明治28）年１月〈復刻〉
樋口一葉「闇桜」未定稿〈複製〉原本　台東区立一葉記念館蔵
「武蔵野」第１輯　1892（明治25）年３月　今古堂
仕入れ帖　1893（明治26）年８月〈複製〉
一葉筆手習い帖「徒然草」
『湖月抄』５冊（樋口家旧蔵）
樋口一葉「たけくらべ」原稿〈複製〉
「文芸倶楽部」第２巻第５号　1896（明治29）年４月
樋口一葉「にごりえ」未定稿
樋口一葉「ゆく雲」未定稿〈複製〉
「太陽」第１巻第５号　1895（明治28）年５月
写真パネル　一葉女史の碑建碑の日　1922（大正11）年10月15日
大橋乙羽編『一葉全集』『校訂一葉全集』

第２室

井伏鱒二（いぶせ　ますじ）

井伏鱒二「花にあらしの」幅〈複製〉
井伏鱒二「歳末閑居一節」額
井伏鱒二「歓酒」対幅〈複製〉原本　個人蔵
「文藝都市」1929（昭和４）年５月
井伏鱒二『山椒魚』1976（昭和51）年９月　成瀬書房
井伏鱒二「旧・笛吹川の趾地」原稿〈複製〉
井伏鱒二「波高島」原稿〈複製〉原本　川内まごころ文学館蔵
井伏鱒二『侘助』1946（昭和21）年12月　鎌倉文庫
井伏鱒二『黒い雨』1966（昭和41）年10月　新潮社
写真パネル　栃代川にて　飯田龍太と　1963年４月16日
愛用の釣り竿と魚籠
井伏鱒二『小黒坂の猪』1974（昭和49）年７月　筑摩書房
井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年４月　弥生書房
井伏鱒二「本日休診」原稿〈複製〉
井伏鱒二『本日休診』1950（昭和25）年6月　文藝春秋社

太宰　治（だざい　おさむ）

写真パネル　石原家の人々と　1939（昭和14）年元旦
写真パネル　太宰と妻美知子の結婚式　1939（昭和14）年１月８日
太宰治　井伏鱒二宛書簡　1938（昭和13）年10月25日消印〈複製〉
太宰治『女生徒』1939（昭和14）年４月　砂子屋書房
太宰治『右大臣実朝』1943（昭和18）年９月　錦城出版社
太宰治「陰火」原稿〈複製〉
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」（表面）拓本幅
太宰治文学碑　撰文（裏面）拓本幅

太宰治『人間失格』1948（昭和23）年７月　筑摩書房
太宰治　高田英之助宛書簡　1939（昭和14）年１月17日〈複製〉
映画「真白き富士の峯」ポスター　個人蔵
「若草」1939（昭和14）年６月

檀　一雄（だん　かずお）

檀一雄「太郎生後九十四日」額〈複製〉
檀一雄「秋果百頴」額
檀一雄「旅立ち」原稿〈複製〉
檀一雄『リツ子・その愛』『リツ子・その死』1950（昭和25）年４月　作品社
写真パネル　能古島の草庵「月壺洞」にて　1975（昭和50）年
檀一雄「微笑」（『火宅の人』第１章）原稿〈複製〉
映画「火宅の人」ポスター　1986（昭和61）年　東映
檀一雄『火宅の人』特装本　1979（昭和54）年６月　新潮社
檀一雄が描いた父・参郎、母・とみの絵
蔡元培「半軒倚竹夜聴雨」「一盞秋燈閒讀書」対幅
檀一雄「おめざの要る男」原稿
檀一雄「小説坂口安吾」原稿
檀一雄「落日を拾ひに行かむ海の果」色紙
檀一雄「娘達への手紙」原稿
「新人」創刊号　1933（昭和８）年11月
「鷭」第１輯・第２輯　1934（昭和９）年４月・７月
愛用のワインボトルの籠
『檀流クッキング』1970（昭和45）年７月　サンケイ新聞社
檀一雄「微笑」原稿（『火宅の人』第１章）原稿
映画「火宅の人」パンフレット　1986（昭和61）年　東映
中国でのスケッチ帳
檀一雄「旅立ち」（『リツ子・その愛』第１章）原稿
「真説石川五右衛門」新聞切り抜きスクラップ帳
玉井徳太郎「少年猿飛佐助」新聞連載挿絵原画
檀一雄「惑いの部屋」原稿（『火宅の人』第２章）原稿
檀一雄『檀一雄全詩集』1976（昭和51）年６月　皆美社
檀一雄『檀一雄歌集』1978（昭和53）年２月　皆美社
檀一雄『モガリ笛』1979（昭和54）年２月　皆美社
檀一雄「モガリ笛いく夜もがらせ花に逢はん」色紙
佐藤春夫「くわっこうは恋人を呼び友を呼び行く雲をよび影を呼び山彦をよび呼びくらす四方の山々」色紙
尾崎一雄　檀一雄宛書簡　1949（昭和24）年１月18日
保田與重郎　檀一雄宛書簡　1954（昭和29）年８月15日
三島由紀夫　檀一雄宛書簡　1949（昭和24）年６月26日

山本周五郎（やまもと　しゅうごろう）

写真パネル　秋山青磁 撮影
映画「五瓣の椿」ポスター　1964（昭和39）年　松竹
映画「赤ひげ」ポスター　1965（昭和40）年　東宝
山本周五郎『赤ひげ診療譚』1959（昭和34）年２月　文藝春秋新社
映画「どですかでん」ポスター・パンフレット　1970（昭和45）年　東宝
山本周五郎『季節のない街』1962（昭和37）年12月　文藝春秋新社
風間完「樅ノ木は残った」イメージ画
山本周五郎『樅ノ木は残った』（全）1969（昭和44）年８月　講談社
山本周五郎「夏草戦記」原稿〈複製〉

山本周五郎『夏草戦記』1945（昭和20）年３月　八雲書店
山本周五郎『山彦乙女』1952（昭和27）年２月　朝日新聞社
山本周五郎『甲州小説集』1974（昭和49）年８月　実業之日本社
山本周五郎「わが野鳥たち」原稿〈複製〉
山本周五郎「青べか物語」原稿〈複製〉原本　県立神奈川近代文学館蔵

深沢七郎（ふかさわ　しちろう）

深沢七郎　今川焼屋「夢屋」ポスター
写真パネル　ギターリストの頃
写真パネル　1957（昭和32）年１月
写真パネル　映画「笛吹川」のロケの折に、坊ヶ峯で木下恵介監督（右）と、1965（昭和30）年
写真パネル　1976（昭和51）年４月６日、笛吹市石和町の甲運亭にて
深沢七郎選集出版記念ギターリサイタル　ポスター　1968年
深沢七郎「楢山節考」原稿〈複製〉
「中央公論」第71年第12号　1956（昭和31）年11月
深沢七郎『楢山節考』1957（昭和32）年２月　中央公論社
『楢山節考』出版記念会次第
松竹映画「楢山節考」プログラム　1958（昭和33）年４月　映画タイムス社
映画「楢山節考」ポスター・パンフレット　1983年
深沢七郎「笛吹川」原稿〈複製〉
深沢七郎『笛吹川』1958（昭和33）年４月　中央公論社
深沢七郎作　井伏鱒二に贈った将棋駒台
深沢七郎『甲州子守唄』1965（昭和40）年３月　講談社
深沢七郎「言わなければよかったのに日記」原稿〈複製〉
深沢七郎『言わなければよかったのに日記』1968（昭和43）年３月

山崎方代（やまざき　ほうだい）

山崎方代「ふるさとの右左口郵は骨壺の底にゆられて吾がかえる村」幅
山崎方代「亡き母のふるさとに来て腹赤き蟹の子供を吹き散すなり」幅
山崎方代「なまよみの甲斐の源氏の末なればゆみ取の弓高くあげなむ」幅
山崎方代「ほんとうの酒がこの世にあつた時父もよいにき吾もよいたり」幅
山崎方代「丸出しの甲州弁で申します花は死であり死も花である」額
山崎方代「水晶の青い峠の頂きになんぢゃもんぢの木が立ってゐる」幅
山崎方代「茶碗の底に梅干が(の）種が二つ竝びをるこれが愛というものなのだ」幅
写真パネル　湯川晃敏氏撮影
山崎方代「山さくら花の盛りとなりにけり鎌倉山の春深くして」短冊
山崎方代「榧の木は苗のうちより名木のそしりを受けて伸びてゆくなり」色紙
山崎方代「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照せり」色紙
山崎方代「広辞苑辞書を枕にかけめぐる半偈の夢を見ることにする」短冊
方代旧蔵の『広辞苑』
山崎方代「ほゝずきの花が咲いているほゝずきの花は母である」一枚物
山崎方代「亡き姉よ今御嶽の頂にのぼりて昼の星見けたり」短冊
山崎方代「冬の日が真綿のやうに射しこんで大正三年も遠くなりたり」短冊
山崎方代「茶碗の底に梅干の種が二つ並びをるこれが愛というものなのだ」短冊
山崎方代「フランソワ・ヴィヨンの詩鈔ふところに一ツ木町を追われゆくなり」短冊
山崎方代「裏の柿の木に日が当りいて女は遠方にある」一枚物
山崎方代「わが歌の秘密」草稿　その１〈複製〉
方代愛用の品　拡大鏡　眼鏡　万年筆
山崎方代『方代』1955（昭和30）年10月　山上社
山崎方代『こおろぎ』1980（昭和55）年11月　短歌新聞社

中村星湖（なかむら　せいこ）

中村星湖「少年行」原稿〈複製〉
「早稲田文学」第18号　1907（明治40）年５月
中村星湖『少年行』現代代表作叢書第12篇　1915（大正４）年10月　植竹書院
中村星湖訳『ボヴリイ夫人』1916（大正５）年６月　早稲田大学出版部
『残雪抄　中村星湖／まさじ和歌集』1988（昭和63）年４月　文遊社

前田　晁（まえだ　あきら）

田山花袋筆「文章世界」創刊号立案〈複製〉
小出楢重画「文章世界」第15巻第11号表紙原画〈複製〉1920（大正９）年11月
「人物評論」第１年第10号　1933（昭和８）年12月
前田晁『少年国史物語』原稿〈複製〉

三井甲之（みつい　こうし）

「アカネ」創刊号表紙原案　1908（明治41）年２月
長塚節　三井甲之宛書簡　1908（明治41）年（推定）１月８日〈複製〉
三井甲之訳『ファウスト』1930（昭和５）年
三井甲之愛用の筆立てと眼鏡

中里介山（なかざと　かいざん）

中里介山「大菩薩峠　流転の巻」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
中里介山「大菩薩峠　めいろの巻」新聞切り抜き
中里介山『大菩薩峠』1918（大正７）年11月　玉流堂
中里介山『大菩薩峠』1919（大正８）年４月　玉流堂
『石井鶴三挿絵集』第１巻　1934（昭和９）年11月　光大社
「大菩薩峠」リーフレット　1951（昭和26）年１月　新国劇初春公演　名古屋御園座

伊藤左千夫（いとう　さちお）と山梨の歌人たち

「馬酔木」第３巻第２号　１906（明治39）年２月
神奈桃村「神奈桃村日記」1906（明治39）年
「馬酔木」第３巻第６号　1906（明治39）年10月
「アラヽギ」第２巻第１号　1909（明治42）年９月
伊藤左千夫「よもつくにの道の長手をよろつたひかへりみすらむ旅の子ゆへに」短冊
伊藤左千夫「敷妙の家のうちとの物みなのきよきにきほひ咲ける花かも」短冊
神奈桃村「紫芋をかこひ穴よりとりいたし芽あるとなきを選りわけるかも」短冊
神奈桃村「岩窟のおくまるところ真かゝやく黄金の像一寸八分」短冊
日原無限「真鏡と空澄渡りはらはらと木の葉を拂う初冬の風」短冊
日原無限「時雨空霽れなむとする雲の色彼の雲の色よ君が心に」一枚物
日原無限ほか「檜會（題苔）」原稿
岡千里「吾児等のあさいはさめず紅のはなあたらしき落つばきかも」短冊
岡千里「落椿みだれて赤き花屑に日輪黒くはめてある如し」短冊

秋山秋紅蓼（あきやま　しゅうこうりょう）

秋山秋紅蓼「うめの花枝にひらきかほり来るあさ」短冊
秋山秋紅蓼『兵隊と桜』1940（昭和15）年１月 沙羅書店
秋山秋紅蓼「俳句四格調の説」原稿〈複製〉
秋山秋紅蓼「きいろいのみものがすずしく遠ういなづま」色紙
秋山秋紅蓼「牡丹」原稿
秋山秋紅蓼「北海道にて　日ぐれの白波へ低い雲柱があるだけ」短冊
秋山秋紅蓼「ふるさと」草稿〈複製〉

田中冬二（たなか　ふゆじ）

田中冬二『青い夜道』1929（昭和４）年12月　第一書房
田中冬二愛用の眼鏡
「パンテオン」第２号　1928（昭和３）年５月
田中冬二「奈良田にて」色紙〈複製〉
田中冬二　深沢正志宛書簡　1964（昭和39）年４月９日

木々高太郎（きぎ　たかたろう）

「新青年」第15巻第13号　1934（昭和９）年11月
木々高太郎『眠り人形』1935（昭和10）年４月　春秋社
木々高太郎「笛吹　―或るアナーキストの死」原稿〈複製〉
木々高太郎『笛吹』1948（昭和23）年３月　世界社

小尾十三（おび　じゅうぞう）

「文藝春秋」第22巻第12号　1944（昭和19）年12月
小尾十三『雑巾先生』1945（昭和20）年２月　満洲文藝春秋社〈復刻〉
小尾十三旧蔵　芥川賞記念品の腕時計
小尾十三「母への反抗時代」原稿〈複製〉
小尾十三『ひとりっ子の父』1945（昭和20）年２月　第三文明社
川端康成　小尾十三宛書簡　1951（昭和26）年５月９日

村岡花子（むらおか　はなこ）

村岡花子旧蔵　モンゴメリ『ANNE OF GREEN GABLES』1908年〈復刻〉
村岡花子『赤毛のアン』翻訳原稿〈複製〉
村岡花子『赤毛のアン』1952（昭和27）年５月　三笠書房
村岡花子『道雄を中にして』1926（大正15）年12月　非売品
「家庭」第２巻第１号　1931（昭和６）年１月
村岡花子『随筆集　心の饗宴』1947（昭和22）年11月　花書房

徳永寿美子（とくなが　すみこ）

徳永寿美子『おかあさんのおひざ』1953（昭和28）年４月　金の星社
徳永寿美子「小公子」原稿〈複製〉
徳永寿美子『小公子』1956（昭和31）年１月　偕成社
徳永寿美子『あんじゅとずしおう』1958（昭和33）年９月　実業之日本社
「母」第６年第８号　1920（大正９）年８月〈複製〉原本　成蹊学園学園史料室蔵
徳永寿美子『薔薇の踊り子』1921（大正10）年２月　アルス〈複製〉

八木義徳（やぎ　よしのり）

「満洲観光聯盟報」第５巻第６号　1941（昭和16）年６月
八木義徳「胡桃」原稿
野口冨士男　八木義徳宛書簡　1973（昭和48）年11月15日
八木義徳「灰色の海にぼうぼうと鳴る霧笛の音によって私はチャイコフスキーの音楽よりも先に北方の憂愁（トスカ）を知った」色紙
八木義徳文章は血と土と海の風から生れる」色紙
『八木義徳集』全８巻　1990（平成２）年３月～10月　福武書店　妻正子への献辞入り
八木義徳「甲州と私」原稿
八木義徳『生れ出づる悩み』（有島武郎）」原稿
第三次「早稲田文学」第４巻第２号　1937（昭和12）年２月
「日本文学者」創刊号　1944（昭和19）年4月

八木義徳『母子鎮魂』1948（昭和23）年３月　世界社
八木義徳『私のソーニャ』1949（昭和24）年３月　文藝春秋新社
八木義徳　中込正子宛書簡　1951（昭和26）年８月28日
「文藝」第19巻第３号　1980（昭和55）年３月
八木義徳「系図」原稿
「文藝」第14巻第７号　1975（昭和50）年７月
八木義徳『風祭』1976（昭和51）年８月　河出書房新社
「海燕」1990（平成２）年１月
八木義徳『文学の鬼を志望す』1991（平成３）年10月　福武書店
八木義徳『われは蝸牛に似て』2000（平成12）年１月　福武書店

武田泰淳（たけだ　たいじゅん）

「海」第１巻第５号　1969（昭和44）年10月
武田泰淳『富士』1971（昭和46）年11月　中央公論社
司修『富士』挿絵原画エッチング
武田泰淳「わが子キリスト」原稿〈複製〉原本　日本近代文学館蔵
武田泰淳『わが子キリスト』1968（昭和43）年12月　講談社

李良枝（イ・ヤンジ）

愛用の筆筒、文具類
李良枝「ナビ・タリョン」草稿
「群像」1982（昭和57）年11月
李良枝「かずきめ」草稿
李良枝『由熙』1989（平成元）年２月　講談社
芥川賞正賞の記念品
李良枝『石の聲』1992（平成４）年９月　講談社
『李良枝全集』1993（平成５）年５月22日　講談社

辻　邦生（つじ　くにお）と山梨

「海」創刊特大号　1969（昭和44）年７月
辻邦生『背教者ユリアヌス』1972（昭和47）年10月　中央公論社
辻邦生「ある生涯の七つの場所　祭の果て」原稿
「海」1976（昭和51）年７月
辻邦生『銀杏散りやまず』1989（平成元）年９月　新潮社
辻邦生「君を夏の日の一日に喩えようか　シェイクスピア「ソネット」の一部　吉田健一訳」色紙

第3室　芥川龍之介

【大川の水（誕生・少年期）】

芥川龍之介「義仲論」原稿「東京府立第三中学校学友会雑誌」1910年２月掲載
「東京府立第三中学校学友会雑誌」第15号　1910（明治43）年２月
暑中休暇中の日記　1904（明治37）年７月～８月
水泳帽
伯母ふき筆　長唄稽古本
芥川龍之介　芥川道章宛葉書　1910（明治43）年５月25日

【空中の火花（文壇登場）】

菅虎雄筆「我鬼窟」扁額〈複製〉

芥川龍之介「鼻」草稿「新思潮」1916（大正５）年２月掲載〈複製〉
「新思潮」創刊号　1916（大正５）年２月
夏目漱石『社会と自分』1915（大正４）年11月　実業之日本社
「新思潮」第１年第６号表紙・奥付上段原案
芥川龍之介「葬儀の記」原稿〈複製〉
芥川龍之介「寒山拾得」草稿「中央公論」1920（大正９）年４月掲載
芥川龍之介『傀儡師』1919（大正８）年１月　新潮社
芥川龍之介「妙な話」草稿「現代」1921（大正10）年１月掲載
芥川龍之介『点心』1923（大正11）年５月　金星堂
芥川龍之介『支那游記』1925（大正14）年11月　改造社

【ぼんやりした不安（苦悩と死）】

芥川龍之介筆「澄江堂十首」巻子〈複製〉原本　天理大学附属天理図書館蔵
『近代日本文藝読本』全５巻　1925（大正14）年11月　興文社
芥川龍之介『湖南の扇』1927（昭和２）年６月　文藝春秋社出版部
芥川龍之介「文芸的な、余りに文芸的な」原稿「改造」1927（昭和２）年４月掲載〈複製〉
芥川龍之介「或阿呆の一生」原稿「改造」1927（昭和２）年10月掲載〈複製〉

【書画の魅力】

芥川龍之介　風景水彩画　1909（明治42）年
芥川龍之介　女性像水彩画　1910（明治43）年
芥川龍之介　男性像水彩画
芥川龍之介　菅虎雄宛書簡　1913（大正２）年11月17日
芥川龍之介　西村貞吉宛書簡　1922（大正11）年７月21日
芥川龍之介　小穴隆一宛書簡　1922（大正11）年７月９日
芥川龍之介　石川寅吉宛書簡　1924（大正13）年３月８日

【芥川の俳句】

芥川龍之介　飯田蛇笏宛書簡　1923（大正12）年12月１日〈複製〉
飯田蛇笏　芥川龍之介宛書簡　1926（昭和元）年12月29日〈複製〉原本　個人蔵
芥川龍之介「花火より遠き人ありと思ひけり」ほか俳句草稿
芥川龍之介「紙巻の煙の垂るる夜長かな」ほか俳句草稿
芥川龍之介「みぞるるや犬の来てねる炭俵」ほか俳句草稿
「ホトトギス」1918（大正７）年９月
「ホトトギス」1919（大正８）年３月
芥川龍之介『梅・馬・鶯』1926（大正15）年12月　新潮社〈復刻〉
「雲母」1927（昭和２）年９月号
『澄江堂句集』1927（昭和２）年12月　文藝春秋社

【芥川と山梨】

芥川龍之介「藤の花軒端の苔の老いにけり」幅
芥川龍之介「水虎晩帰之図」額〈複製〉
芥川龍之介「槍ヶ岳紀行」ノート　1909（明治42）年夏
芥川龍之介　山本喜誉司宛書簡　1910（明治43）年10月14日〈複製〉
芥川龍之介　山梨夏期大学講演メモ〈複製〉

【羅生門】

「羅生門」関連ノート〈複製〉
芥川龍之介『羅生門』1917（大正６）年５月　阿蘭陀書房〈復刻〉
芥川龍之介『鼻』1918（大正７）年７月　春陽堂〈復刻〉

【友への手紙】

芥川龍之介　井川恭宛書簡　1914（大正３）年１月21日〈複製〉
原本　大阪市立大学学術情報総合センター恒藤記念室蔵

【夏目漱石の手紙】

夏目漱石　久米正雄・芥川龍之介宛書簡　1918（大正７）年８月21日〈複製〉

【芥川と児童文学】

「赤い鳥」創刊号　1918（大正７）年７月〈復刻〉
芥川龍之介　鈴木三重吉宛書簡　1919（大正８）年11月９日
芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿〈複製〉
芥川龍之介「杜子春」原稿〈複製〉
芥川龍之介『三つの宝』1928（昭和３）年６月　改造社〈復刻〉

愛用のペーパーナイフ・財布
龍之介作　楽焼皿「小心火盗」
龍之介旧蔵　手帳

第4室　飯田蛇笏・飯田龍太記念室

【境川村小黒坂】

蛇笏・龍太使用の硯　億兆会贈呈。木製蓋付き。雨畑硯。
飯田家家相図　1899（明治32）年

【飯田蛇笏】

写真パネル　早稲田大学時代の蛇笏
「ホトトギス」第12巻第１号　1908（明治41）年10月「俳諧散心号」
若山牧水　飯田蛇笏書簡　1910（明治43）年７月29日
若山牧水　飯田蛇笏書簡　1910（明治43）年８月22日
若山牧水『海の声』1908（明治41）年７月　生命社　蛇笏宛献呈本
若山牧水『別離』1910（明治43）年５月再版　東雲堂書店　蛇笏宛献呈本
「国民新聞」国民俳壇切り抜き
飯田蛇笏「いもの露連山影を正しうす」句額　1914（大正３）年〈複製〉原本　個人蔵
「ホトトギス」1914（大正３）年11月 「芋の露」巻頭号
「ホトトギス」雑詠欄投句稿（複製）原本　天理大学附属天理図書館蔵
「キララ」創刊号　1915（大正４）年５月〈複製〉
「キララ」第２号　1915（大正４）年６月〈複製〉
飯田蛇笏「魂のたとへばあきの蛍かな」1927（昭和２）年〈複製〉額装
写真パネル　家族と庭前で　1917（大正６）年撮影
飯田蛇笏『山廬集』1932（昭和７）年12月　雲母社　川端龍子装幀
飯田蛇笏『山廬集』 序文原稿 〈複製〉
飯田蛇笏「山寺の扉に雲あそぶ彼岸哉」短冊　1916（大正５）年
飯田蛇笏「夏旅や温泉山出てきく日雷」短冊　1925（大正14）年
飯田蛇笏「ほけし絮又離るゝよ山すゝき」短冊　1930（昭和５）年
飯田蛇笏「山柿や五六顆おもき枝の先」短冊　1927（昭和２）年
飯田蛇笏「冬晴れや杭の禽を射ておとす」短冊　1931（昭和６）年
飯田蛇笏「餅花に髪ゆひはえぬ山家妻」短冊　1915（大正４）年
飯田蛇笏「露すずし鎌にかけたる葛のつる」短冊　1929（昭和４）年
飯田蛇笏「ほけし絮の又離るゝよ山すゝき」短冊　1930（昭和５）年

「ホトトギス」1916（大正５）年４月　高浜虚子「進むべき俳句の道（飯田蛇笏）」掲載
村上鬼城「花ちるや耳ふつて馬のおとなしき」色紙
渡辺水巴「秋風やつくゑの上の小人形」短冊
前田普羅「荒梅雨や山家の煙這ひまはる」短冊
原石鼎「満ちしほにすでに灯つらね川開」短冊
飯田蛇笏「行くほどにかげろふ深き山路哉」幅　1929（昭和４）年
飯田蛇笏「小野の鳶雲に上りて春をしむ」幅　1935（昭和10）年
飯田蛇笏「死火山の膚つめたくて草いちご」幅　1935（昭和10）年
飯田蛇笏「水あかりでゝ虫巌を落ちにけり」額装　1936（昭和11）年
飯田蛇笏「鐵のあきの風鈴鳴りにけり」幅　1933（昭和８）年
飯田蛇笏「秋しばし寂日輪をこずゑかな」幅　1935（昭和10）年
飯田蛇笏「寒たまごふところにして閑話哉」幅　1932（昭和７）年
飯田蛇笏「雪やみて山嶽すわる日の光り」幅　1944（昭和19）年
飯田蛇笏「山川のとゞろく梅を手折る哉」短冊　1945（昭和20）年
飯田蛇笏「谷橋に盆花わかつ童女見ゆ」短冊　1946（昭和21）年
飯田蛇笏「いわし雲大いなる瀬をさかのぼる」短冊　1947（昭和22）年
飯田蛇笏『穢土寂光』1936（昭和11）年12月　野田書房
飯田蛇笏『霊芝』 1937（昭和12）年６月　改造社
飯田蛇笏『山響集』1940（昭和15）年10月　河出書房
飯田蛇笏『白嶽』1943（昭和18）年２月　起山房　蕗谷虹兒装幀
飯田蛇笏『春蘭』1947（昭和22）年７月　改造社　木村荘八装幀
飯田蛇笏『心像』1947（昭和22）年11月　靖文社
飯田蛇笏「心像」句稿　1943（昭和18）年部分（複製）
写真パネル　飯田龍太撮影　炉辺の蛇笏　1956（昭和31）年１月撮影
「雲母」復刊号　1946（昭和21）年３月
飯田蛇笏『雪峡』1951（昭和26）年12月　創元社
飯田蛇笏「風さえて宙にまぎるゝ白梅花」幅 1951（昭和26）年
飯田蛇笏「雲遠き塔に上りて春惜しむ」幅　1946（昭和21）年
飯田蛇笏「山ふかき飛瀑をのぼる大揚羽」色紙　1959（昭和34）年
飯田蛇笏「ゆきに辞す人に手燭をこゝろより」幅　1954（昭和29）年
飯田蛇笏「陽を擁くはアトサヌプリの梅雨の雲」短冊　1950（昭和25）年
飯田蛇笏「都会の冬田園の冬」句稿　1949（昭和24）年１月「現代俳句」掲載
飯田蛇笏「春の悲曲」句稿
飯田蛇笏『家郷の霧』1956（昭和31）年11月　角川書店
飯田蛇笏「おく霜を照る日静かに忘れけり」幅　1953（昭和28）年〈複製〉原本　個人蔵
写真パネル　1958年４月８日、門前を歩く蛇笏と龍太・小林富司夫　撮影　若林賢明
飯田蛇笏「御魂祭折から月の上るなり」短冊　1961（昭和36）年〈複製〉原本　個人蔵
「雲母」1962（昭和37）年10月　蛇笏遺句「山月」掲載
「雲母」1962（昭和37）年11月号　龍太「山廬永別」掲載
「雲母」飯田蛇笏特集号　1963（昭和38）年３・４月
飯田蛇笏『椿花集』1966（昭和41）年５月　角川書店
高浜虚子「山廬」扁額〈複製〉
遺品　万年筆・懐中時計・水滴・落款印・印譜
西島麥南「葉桜に風雨の蝶をみたりけり」短冊
石原舟月「春惜みつつ風交のしづかにも」短冊
宮武寒々「無明より無明へ漕げる鮎場かな」短冊
中川宋淵「梅の実の子と露の子と生れ合う」短冊
松村蒼石「桃の花いづくに靄の生れゐる」短冊
高室呉龍「蜂高く飛ぶ夕空に何もなし」短冊
高橋淡路女「白酒に酔ひしにやあらんたのしかり」短冊
柴田白葉女「陸奥の海くらく濤たち春祭」短冊